

多摩川における河川整備の効果について (水害リスクの評価(試行))

令和4年11月29日

国土交通省 関東地方整備局

■背景

- 平成27年8月に社会資本整備審議会会長から国土交通大臣に「水災害分野における気候変動適応策のあり方について～災害リスク情報と危機感を共有し、減災に取り組む社会へ～」が答申されました。

http://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/mizukokudo03_sg_000122.html

- この答申では、様々な外力での水害リスクを評価し、社会全体で水害リスク情報を共有し、ハード・ソフト両面から対策を進めていくことが示されています。

■今回提示する資料について

- 多摩川水系河川整備計画に定めた施設整備が完了した場合の水害リスクの変化を試行的に提示するものです。
- この試行を踏まえ、水害リスク情報のわかりやすい提示に努めて参ります。

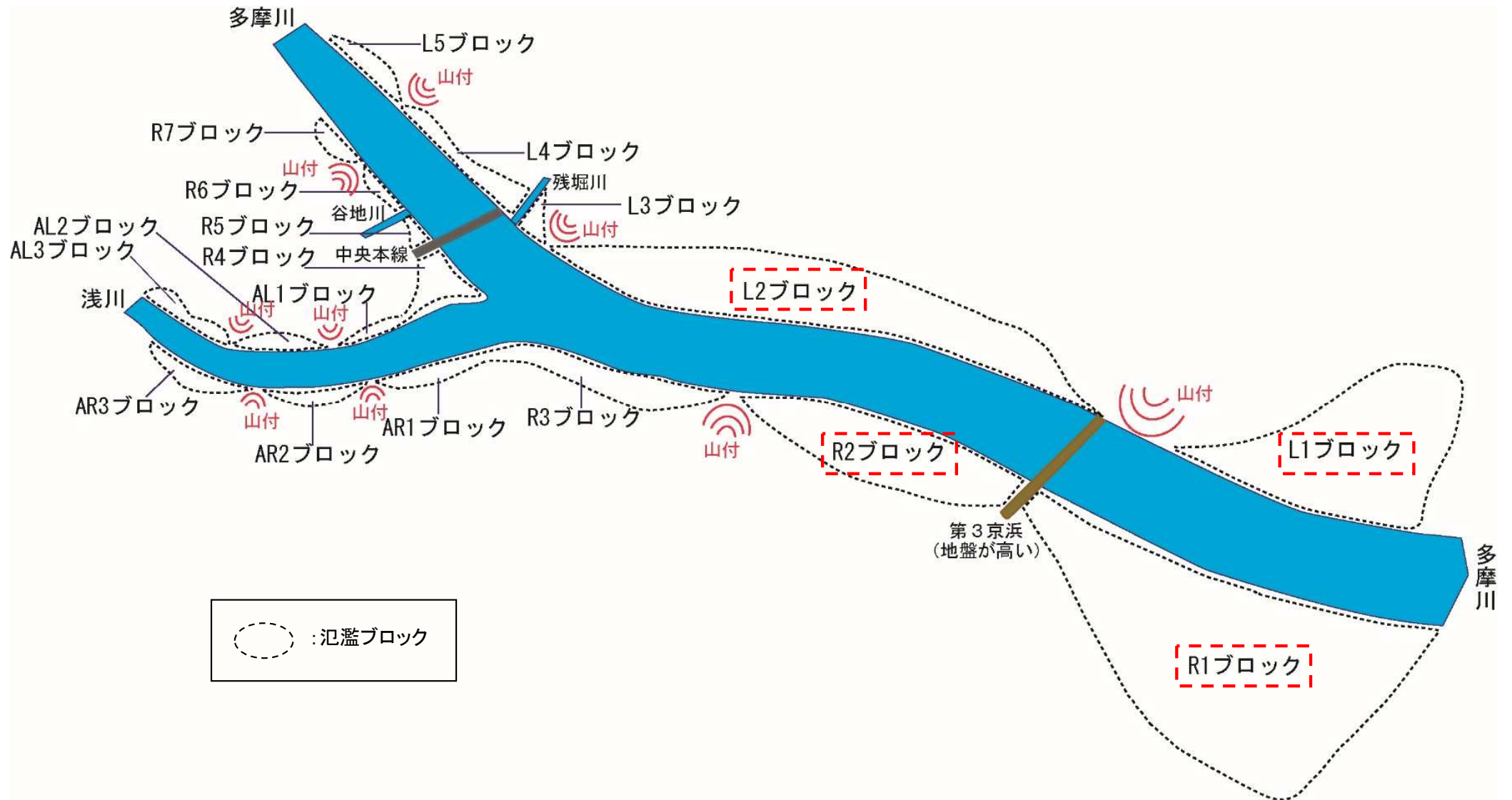
■施設及び破堤条件

	現況河道	整備計画河道
施設条件	洪水調節施設なし	
破堤条件	「スライドダウン堤防高-余裕高評価」又は「HWL高評価」のいずれか低い方	

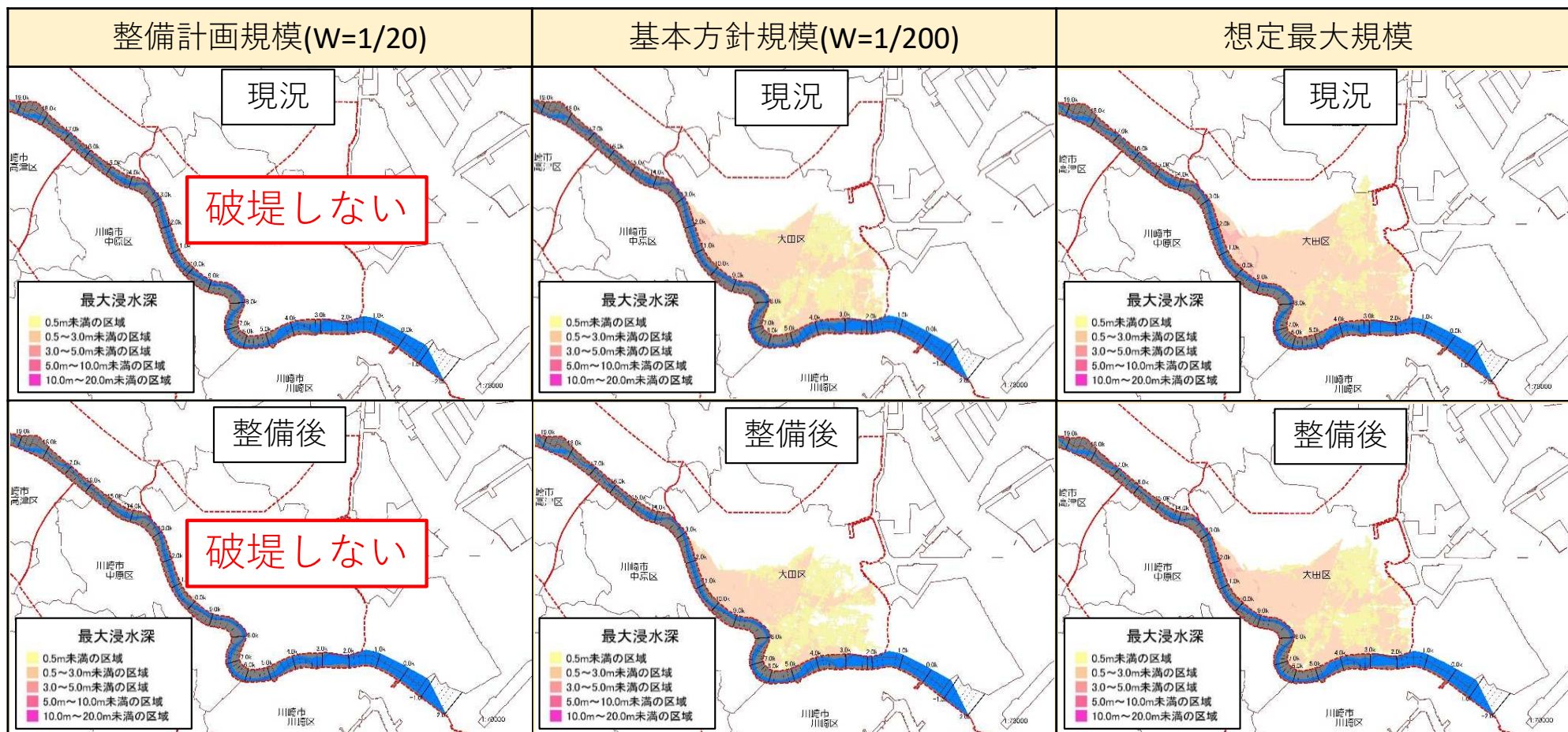
■確率規模別の外力設定条件

	整備計画規模 (W=1/20)	基本方針規模 (W=1/200)	想定最大規模
降雨量 (mm/2日)	323	457	588
降雨条件	昭和49年9月波形 (整備計画対象波形)		

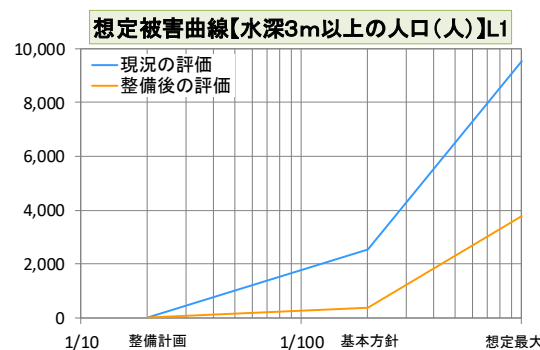
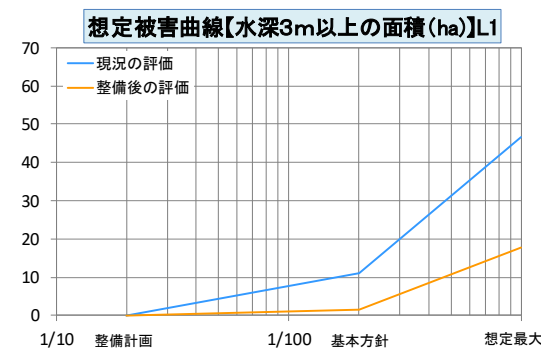
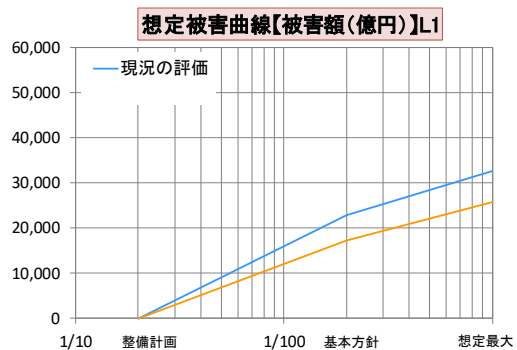
○多摩川水系の氾濫ブロックのうち、人口、資産が集中している中下流部の4ブロック（L1、L2、R1、R2）を対象として検討を実施。



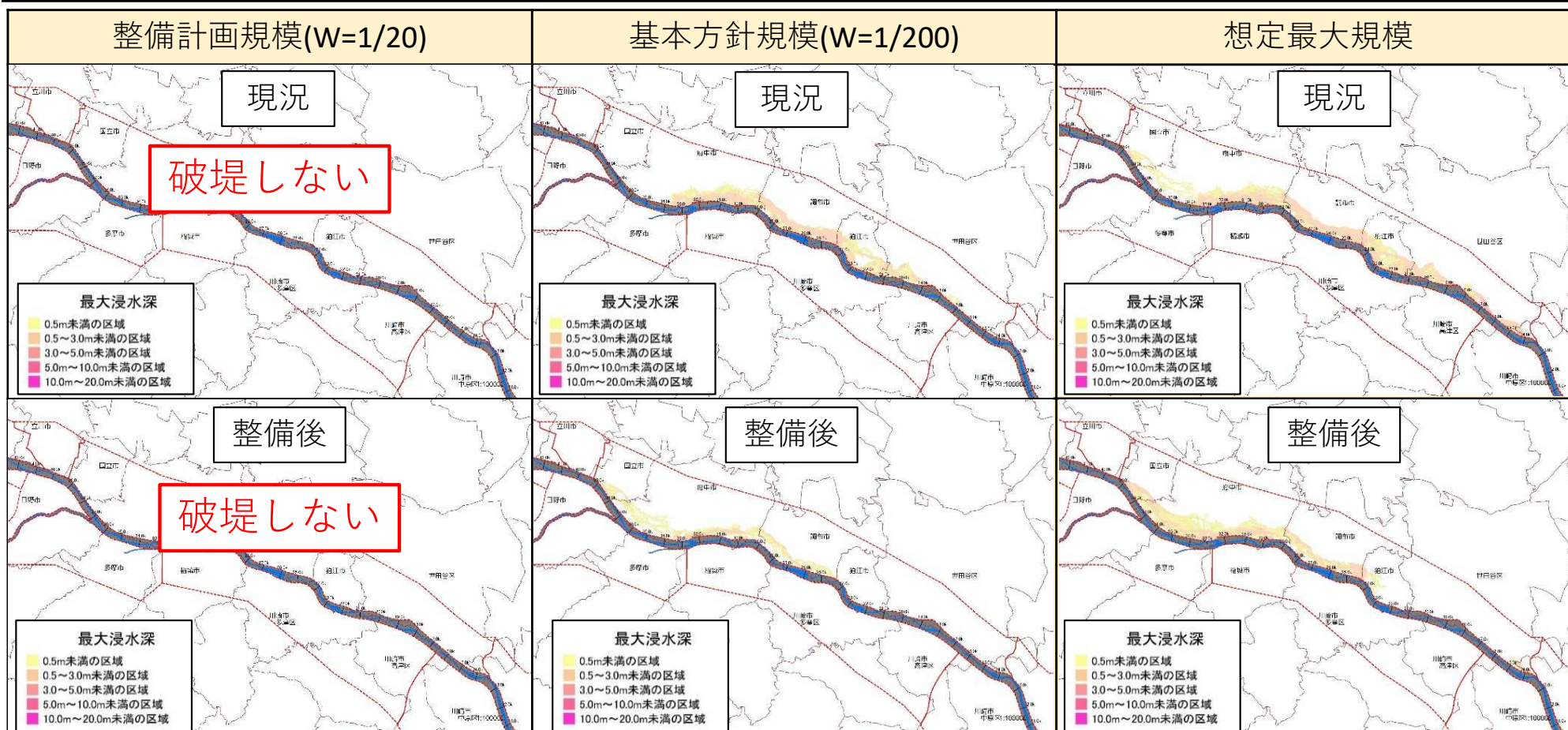
○L1ブロックにおける確率規模毎の想定被害曲線



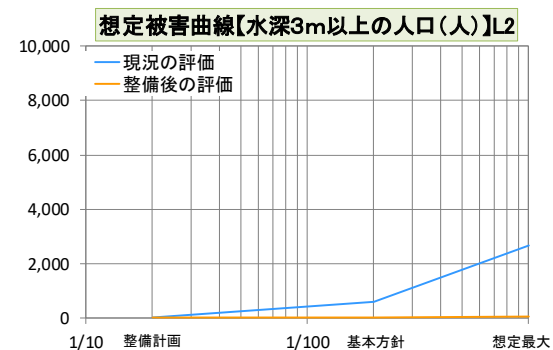
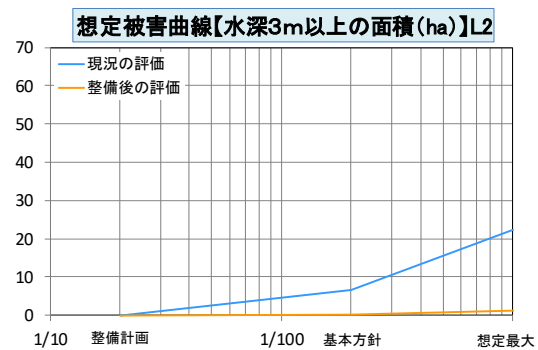
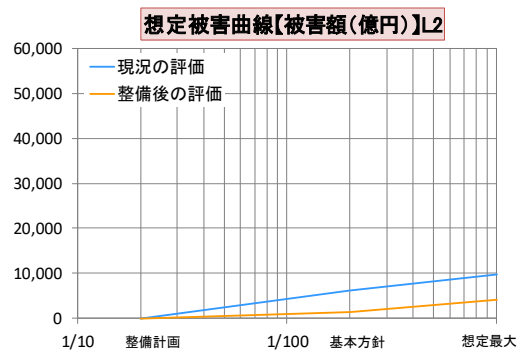
※本図は最大浸水深図をお示ししています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値です。



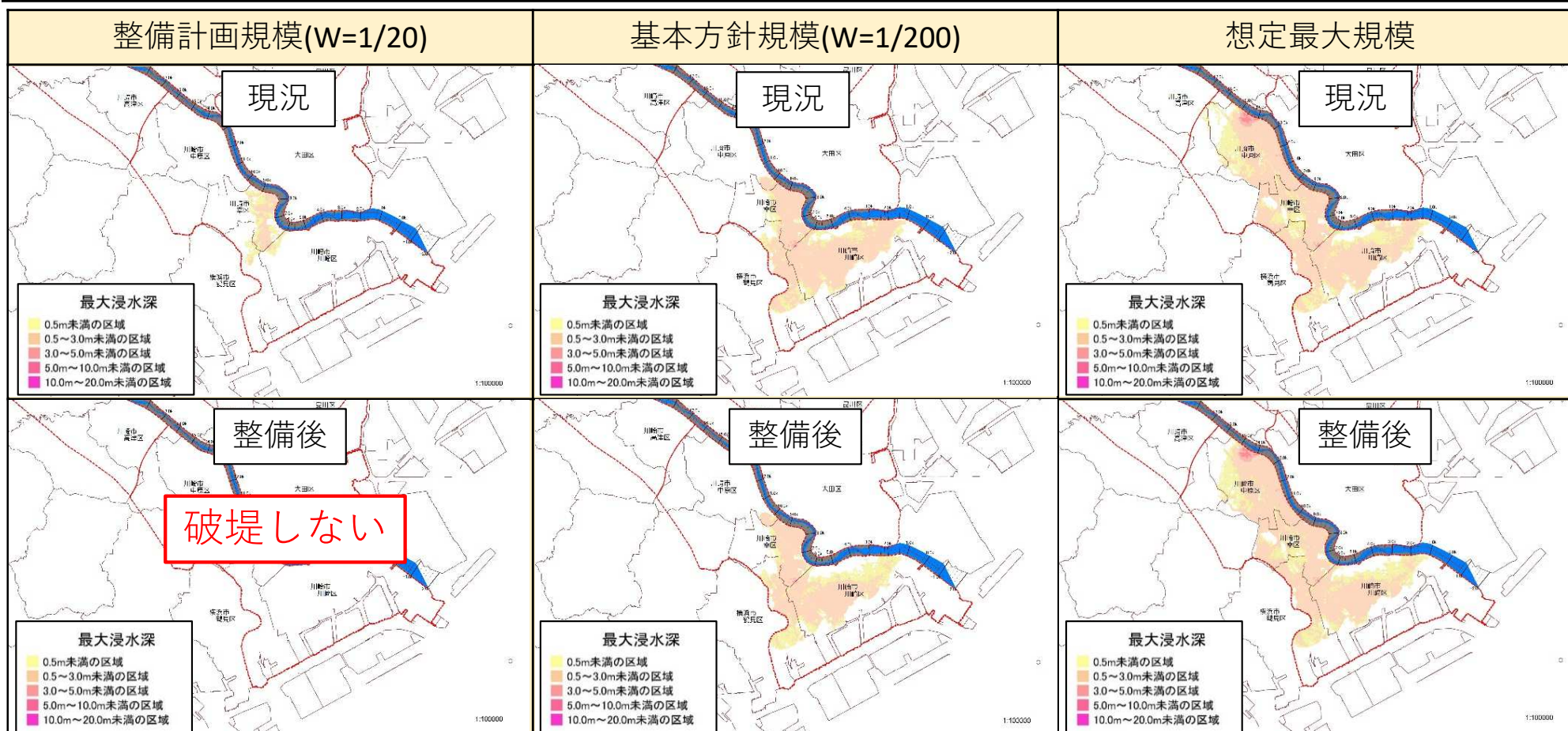
○L2ブロックにおける確率規模毎の想定被害曲線



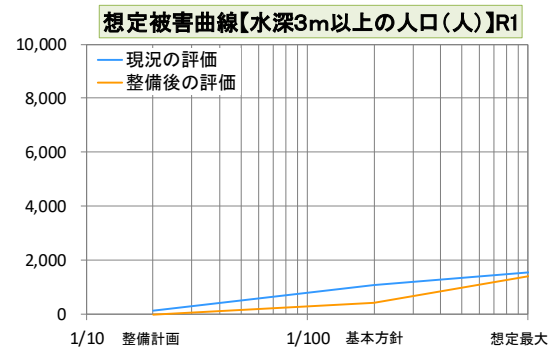
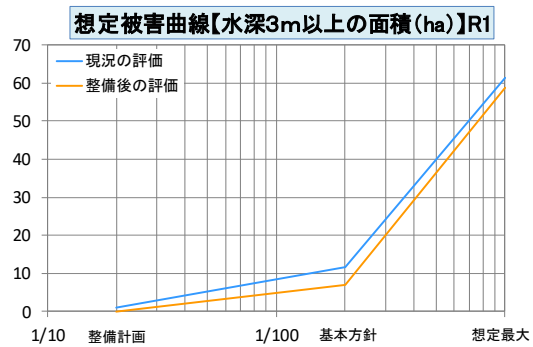
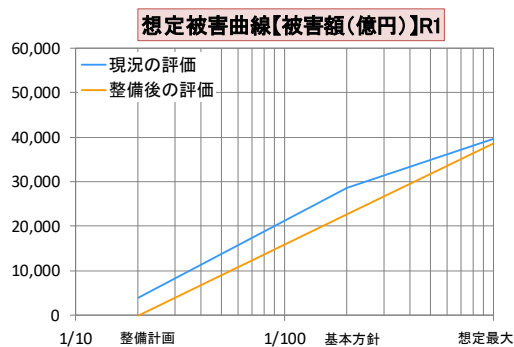
※本図は最大浸水深図をお示ししています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値です。



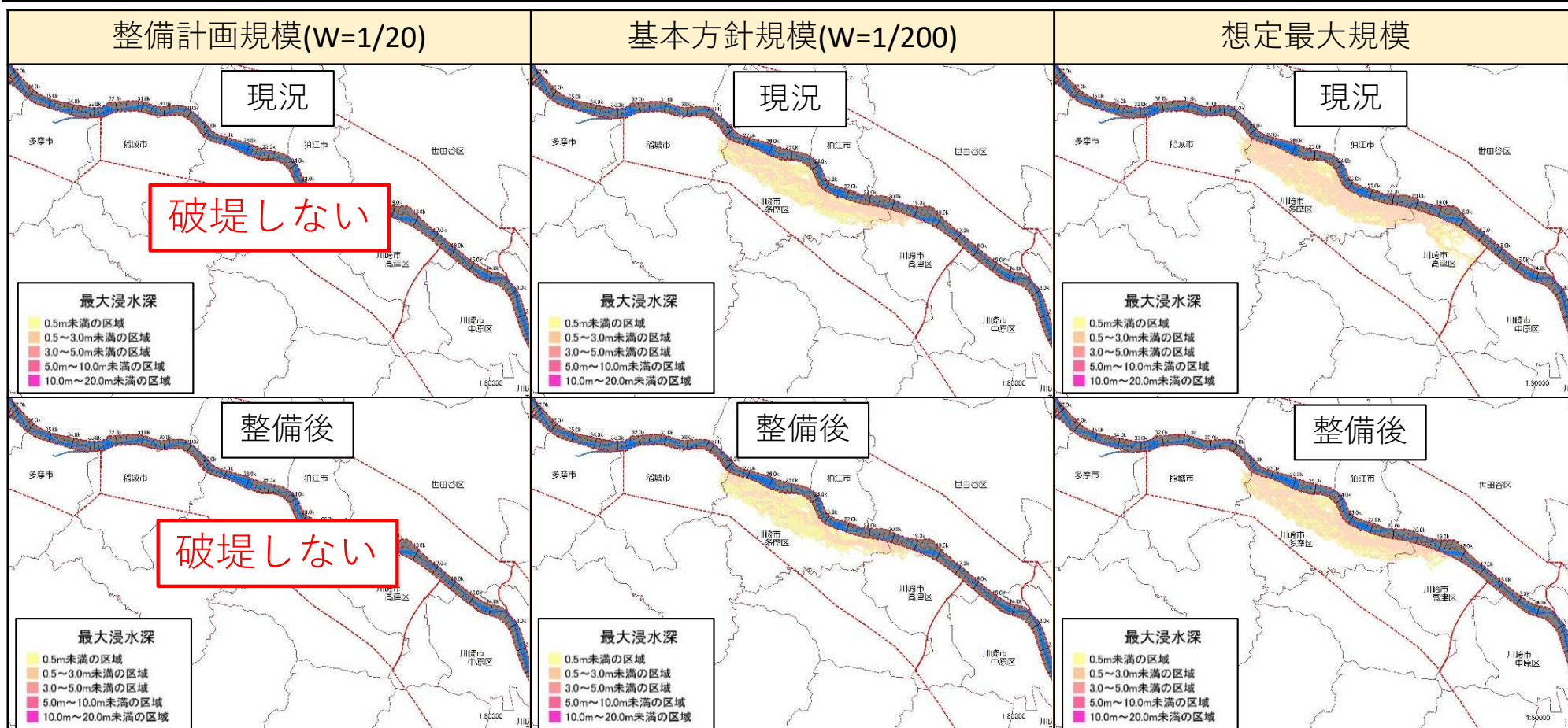
○R1ブロックにおける確率規模毎の想定被害曲線



※本図は最大浸水深図をお示ししています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値です。



○R2ブロックにおける確率規模毎の想定被害曲線



※本図は最大浸水深図をお示ししています。
 ※破堤点の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
 ※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
 ※本検討は、暫定値です。

